

東京 2020 大会の競技会場や聖火台が集まる臨海副都心部のオリンピックプロムナードにおいて、CLA 関東支部が、東京港埠頭株式会社の事業を支援した「花と緑のおもてなしプロジェクト」と東京 2020 大会の「アートガーデン」が 7 月 21 日に公開され、来街者の人気を集めました。



この事業は、2014 年来の内閣府の 9 つのイノベーションプロジェクトの一つ「ジャパンフラワープロジェクト」の一つとして、花卉園芸・造園業界が丸となり取り組んできた「夏花（ナツバナ）による緑化・庭」という新たな文化育成と花卉造園業界の再活性化という狙いが、今回の充実した夏花の花種選定に結実して注目を集めています。

CLA 関東支部では企画段階から支援を行い、設計・監理支援では、支部会員の若手によるデザインワークショップの実施、ベテランの技術フォローなど、新しいデザイン力の育成と技術の継承という CLA のミッションも並行して取り組んだ事業となりました。そして、夏花による緑化は、既存の公園基盤（アンジュレーションや既存の植物や施設）を活かした、ランドスケープの骨格への花修景により、五輪・パラリンピックの「ハレ」感を盛り上げました。夏のガーデンとは思えない花の魅力の充実が、外国人を中心に多くの来街者のカメラやスマホレンズを引き付けていました。



携ったCLA若手デザイナー（矢野晴香氏、浦澤柚花氏）



東京港埠頭株式会社の早貸担当課長からは、労いと感謝と共に、CLA 若手デザイナーへの価値ある提言と今後への期待の言葉を頂きました。

## リレー紹介！ RLAなヒトビト



板垣 範彦 Norihiko Itagaki

いきものランドスケープ代表。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。東京農業大学卒業後、(株)愛植物設計事務所にて勤務。山本紀久氏に多くを学ぶ。2011 年いきものランドスケープを設立。現在 (株)ランドスケープ・プラスのパートナーを兼務。中央大学、法政大学、前橋工科大学非常勤講師。

私が独立して仕事をスタートした時に事務所のミッションとしてかかげたものが 3 つあります。①その土地の風土を形成する土地、水、気候、“いきもの”の関係を見極める。②“いきもの”が快適に棲める環境を確保し、それらが持つ機能を効果的に活用することによって“ヒト”のくらしに貢献する空間をつくる。③社会・環境における“いきもの”の役割をわかりやすく“ヒト”に伝える。これらによって私たち“ヒト”が他の生物と共生し、持続的発展が可能な社会や環境を提案することをめざしました。

これはわたしの RLA としての立ち位置でもあり、様々なプロジェクトにおいての立ち位置になります。時として対立的な意見も出てきますが、私としては最終的には矛盾が生じないものと感じています。

立花隆は「エコロジー的思考のすすめ」において、人間の社会が自然というシステムのサブシステムであるとし、生態系の動的なシステムが人間の社会、経済、倫理観においての根底にあるとしています。今まさに人間の多様性が重要視されている中、生物多様性の維持は普遍的な意味において最重要課題であるといえます。現在建築や土木系の学生にランドスケープを教える機会をいただいておりますが、この普遍的なシステムとしての自然を改めて理解してもらおうとともに、なるべく現場で直接ふれてもらうようにしています。それによって、将来的にどのような分野に進んでもエコロジー的思考をもって問題解決していくことを期待しています。

## いきものコラム その 28

## 「都市の緑とアオスジアゲハ」

春から秋にかけて、花や樹木の周りをせわしなく飛び回る黒地にライトブルーの差し色の羽を持つチョウがいます。アオスジアゲハです。自然豊かな郊外のみならず、都市域においてもその姿を目にするのは珍しくありません。

アオスジアゲハが都市域に生息するには理由があります。本種の幼虫は、クスノキやタブノキなどのクスノキ科の樹木の葉を食べて育ちますが、これらクスノキ科の樹木は、常緑で樹形が美しく、排ガスにも強いといった特性から、都市域において、街路樹、公園の植栽、社寺林などによく用いられています。また、成虫は様々な花で吸蜜しますが、公園などの生け垣に用いられ、盛夏にも花を付けるアペリアや、繁殖力旺盛で市街地の道端や荒地にも生育するヤブガラシは、夏季の重要な吸蜜源となります。こ



ブレック研究所 岩崎 史知

のように、幼虫と成虫の食物が共に得られる都市域は、アオスジアゲハの生息に適した環境なのです。アオスジアゲハは、高い所を高速で飛び回っていることが多いチョウですが、水たまりで給水している間はじっとしています。不思議なことに、このような給水行動をとるアゲハ類はほとんどが雄なのです。シロオビアゲハという種を用いた研究により、雄は給水によって摂取したアンモニアを筋肉や精子の生産に役立てていることがわかりました。春、開花期を迎えたクスノキは、清涼感のある香りを漂わせます。その葉を食べて育ったアオスジアゲハが舞う姿は、見た目にも涼やかです。温暖化が進む昨今、植栽された樹木を追って都市域に進出したアオスジアゲハは、凶らずも私たちに一服の癒しを与えてくれるのです。

## 気になるお店

職人文化の根付く町・蔵前のチョコレートファクトリーを紹介します。

## ダンテライオン・チョコレートファクトリー&カフェ蔵前

近年、古い建物や倉庫をリノベートし、洒落たショップが並ぶ台東区蔵前は、若者を中心に注目を集めており、観光客なども含め多くの人が訪れ、買い物やカフェ巡りを楽しんでいる。そんな蔵前で、ひと際人気を集めているのがサンフランシスコ発の『DANDELION CHOCOLATE ファクトリー&カフェ蔵前』、カカオ豆の選定から成形まで、一貫して自社でチョコレートを作る Bean to Bar の専門店である。チョコレート好きであれば、絶対に一度は訪れるべき店と評されている。

日本 1 号店を蔵前に出店した理由は、この町が昔からものづくりが盛んな下町の地として知られており、このお店の、決して妥協を許さない真摯な気持で向き合うチョコレート

メーカーとしてのこだわりが、日本の伝統やクラフトマンシップが息づく蔵前という町に、共感を得たからという。

お店の目の前には、緑豊かな区立精華公園が隣接、まさに Landscape と Shop が一体化した空間となっている。自然観察のできるピオトープや大きな砂場が小学生や親子連れに人気の公園に、素敵なお店がコラボした。こだわりの絶品チョコレートをいただきながらのグリーンな休憩…という、プラスアルファの楽しみが出来たと来園者にも喜ばれている。



公園のみどりと穏やかに溶けこむクール&モダンな外観のお店 © Dandelion Chocolate Japan

住所 ● 〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-14-6  
電話 ● 03-5833-7270  
営業時間 ● 11:00 - 18:00  
Web ● <https://dandelionchocolate.jp/>



お店のおすすめ「クラマエホットチョコレート」(蔵前限定メニュー)

## 編集後記

当協会の顧問で高野ランドスケーププランニング株式会社取締役会長の高野文彰氏が、去る 8 月 31 日にご逝去されました。現場主義、ワークショップ、バナキュラー、セルフビルド…高野氏の周りにはいつもご自身にも作品にも「野生と前衛」の二オイが充満していました。対して、国内の都市公園が概成に近づく中、ランドスケープはどんどん納まり良く行儀良いモノになった様に思います。奇しくもご命日はヒトビトが宿題の進捗に慌てふためく日…、牙を抜かれたランドスケープと対峙し「野生と前衛の宿題は未だ終わってないぞ!」と叱咤しているような気がします。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(CLA 関東支部広報委員長 高橋)

## みどりの手帖 Vol. 28・29 合併号 2022 年 1 月

発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 光益尚登  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-3-7 近江会館ビル 8 階  
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268

企画・編集 CLA 関東支部広報委員会 高橋 和嗣、加藤 愛、石垣 弘弘、泉地 善雄  
※転載・転用を禁じます。



CLA 関東支部情報誌

Vol.28・29 合併号 2022.1

# みどりの手帖



## 特集 ランドスケープのしごと：公園樹木長寿命化とランドスケープ

### CLAの技術・事例特集 CLA関東支部ニュース

写真[上]：地域の表札になる木立の景(空間芸術の森公園)  
写真[下]：風格の木となる公園の樹(いばきフラワーパーク)

## CLAの技術・事例特集

### ◆ガーデンキュレーター即戦力キャンプ

特集で紹介した第 2 回特別セミナーの講師である、小島理恵・山本紀久両氏による「2021 年夏・第 1 回ガーデンキュレーター即戦力キャンプ」が、7 月 2～3 日に株式会社 Q-GARDEN 主催により開催されました。特別セミナーでの理論面の講演を実践面で裏打ちする、言わばスピノフキャンプを取材しました。



会場は、緑豊かな千葉県君津市の内山緑地建設株式会社・君津グリーンセンターにある「内山ガーデン&アーボリタム」。講義では、小島氏による「ガーデンキュレーターの職能」についてのレクチャー。山本氏による著作『造園植栽術』を深掘した、養生管理・育成管理・抑制管理の 3 段階の重要性、樹木や樹群を魅力的にみせる為の適切な空間確保など、植物管理の基本と重点などのレクチャー。フィールドワークでは、多彩な樹木栽培の苗圃であると同時に、地域開放された花道遊の散策路でもある「内山ガーデン&アーボリタム」の植物管理を現地確認。また、山本氏の指揮のもと内山緑地建設スタッフによる、樹齡 30～40 年のクスノキの大透かしを見学。剪定対象枝の理論的な選択や将来樹形を見越した大胆な枝透かしなど、氏の植栽管理理論に基づく詳細な解説とそれを実現する匠の技術を参加者は目の当たりにしました。植物園、植物生産者、植栽設計、林業など「植物」を軸にした多様な職種・会社の人々が多数参加し、活発な意見交換と交流がなされました。



「第 2 回ガーデンキュレーター即戦力キャンプ」は、R4 年 1 月 15～16 日に開催が予定されています。

<https://q-garden.com/event/id8095/>



## 全国 1 級造園施工管理技士の会（一造会）による、街路樹写真募集!

日頃、同じ造園業界で働く、一級造園施工管理技士の団体全国 1 級造園施工管理技士の会（一造会）が、「街路樹の写真を集めよう!」というイベントを開催中です。一造会によれば、『都市における“みどり”、とりわけ街路樹は、その役割の大きさや健全な生育の条件などについて、十分な理解がなく、過酷な状況におかれています。』

このような状況から、“みどり”の専門家である造園に携わる方々、団体による樹形再生技術やフォトコンテストによる素晴らしい街路樹の紹介などで、関係者の理解も広がってきました。



しかし、枝のない電信柱のような街路樹、コブだらけの街路樹など、良好とはいえない、状態・状況の良くない街路樹は依然として数多く存在しています。今回はあえて、不良な街路樹も含め、街路樹の実情を知るために、全国から多種多様な街路樹の写真を集めることといたしました。街路樹の全景とポイントとなる部分が見えるお写真を①樹種、②所在(住所・路線名など)、③撮影日、④写真のポイント、⑤撮影者名、⑥撮影者のご連絡先とともに、一造会にお送りください。一造会は、写真を収集し、その有効活用を検討してまいります。検討・収集状況については、一造会ホームページに掲載します。一造会の会員に限らず、どなたでも送信下さい。とのことです。

みどりの手帖の読者の方々のご協力お待ちしております。

全国 1 級造園施工管理技士の会（一造会）  
E-mail: info@icz.jp  
TEL: 03-6455-0426 FAX: 03-6455-0427  
事務局宛  
※5MB 以上は「データ便」「ギガファイル便」等をご使用ください



## 特別セミナー 第1回 『公園の樹を風格の木に』 令和3年4月9日

### インフラの長寿命化計画と都市公園の対応

古澤 達也 Tatsuya Furusawa 国土交通省 大臣官房審議官(当時)

●**インフラの長寿命化について**：ストックの増加・老朽化（機能・安全性の低下）の進展、財源不足、自治体技術系職員の減少という深刻な背景課題がある。国の「インフラ長寿命化基本計画」や国交省の「行動計画」が策定されている。

●**都市公園の長寿命化について**：公園は様々な施設の集合体であり、安全確保のために施設別に基準が設けられている。現状は、予算制約上、長寿命化と施設更新に特化せざるを得ない状況にあるが、公園の魅力は「機能の維持」とともに「美観の維持・向上」によって担保されており、安全管理とライフサイクルコストだけを考えるのでは不足。

●**植栽管理について**：風格ある公園樹木を育てるために造園の専門家に期待されることは、

樹木の成長を織り込んだ計画・設計、公園樹木の管理の方針（植栽管理方針）を示すこと。その際、老朽化・安全確保、予算、人員不足という公園管理の現状を踏まえた実行可能なプランとすることが重要。

●**都市公園の「ストック再編」や「公民連携」**：都市公園の「長寿命化」や「公園樹木の計画更新」の契機として取り組むべき。

国営公園の管理運営に携わってきた経験を踏まえて、樹木管理に関する課題を明らかにし、その対応策について提案したい。

国営公園は、開園から数十年経過し、樹木の大径木化、高齢化が著しくなっている。さらに、大幅な維持管理費の減少で、植物管理は、安全管理や人気の高い草花修景が優先されがちである。低木・高木の樹木管理はこの20年間に約6割の金額に減少した公園もあるなど、適正な管理の滞りが懸念される。

課題への対応として、「都市公園で身近な自然である樹木に親しみ、地域の文化として樹木のある風景を創る役割を担う」という目標が重要である。

そのために、①4D(3D+時間)による樹木管理計画とその定期的な見直し  
②景観を構成する樹木の管理に関わる人材育成  
③維持管理費の適正な予算確保、多様な資金の確保の試行  
④管理者・受託者・専門家の共通認識による連携  
⑤樹木のある景観に対する理解の促進と将来にわたる文化共創を中長期的提案としたい。

国営公園の植物管理・樹木管理の現状と課題  
藤田真由美 Mayumi Fujita 一般財団法人公園財団 企画部長

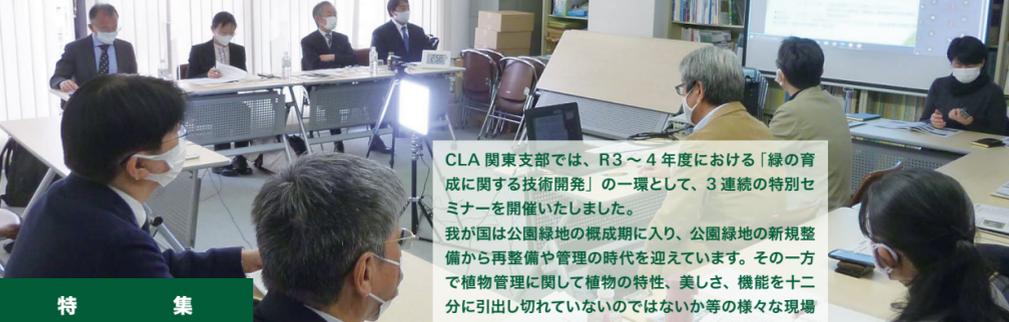


●**長寿命化計画と公園の風格**：公園での無機と有機の変化の違いと調和、二つの経年変化（経年劣化と経年成長）に取り組めるのが公園の莫利である。エイジング、時を経た歳相応の深みと味わいを活かし「公園をまちの表札」とし「公園の樹を風格の木」とする。

●**遷居を迎える公園や街路樹**：都市公園等整備五箇年計画（1972）から約50年。都市公園のストックピラミッドと創設年代別公園リストによりモデル事業を展開すれば、風景まで含めた公園整備ができる。樹齢60年以上の高木も多い。生育基盤の有無などで峻別し、間引きの除伐と優劣選択の択伐を適切に

### 公園の風景をつくる仕事とコンサルタント

菱茂 壽太郎 Toshitaro Minomo 一般財団法人公園財団 理事長・東京農業大学名誉教授



特集

## ランドスケープのしごと：公園樹木長寿命化とランドスケープ

### 特別セミナー 第2回 『理想の風景をつくる術』 令和3年6月4日



### 近年の日本の公園に求められる空間的植栽管理と管理体制

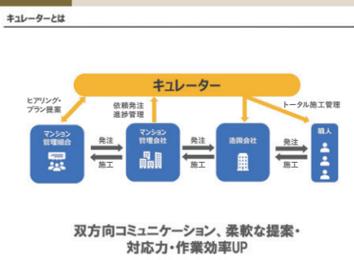
藤井 英二郎 Eijiro Fujii 千葉大学名誉教授

都市公園の植栽管理では、苦情対応に追われて計画的管理が思うように行えず、当初の設計意図や植栽の機能が損なわれている事例が少なからずある。また、切詰剪定で鬱蒼とした高木や、刈込高が高いため見通しを遮り圧迫感のある低木など、技術的課題も散見される。

こうした管理実態の背景には、直営から委託管理になり、さらに定期異動によって管理担当者がジェネラリスト化し、専門的な管理発注や評価ができなくなっている管理体制の

### 植物の風景をつくるランドスケープキュレーター

小島 理恵 Rie Kojima 株式会社Q-GARDEN 代表取締役



民間を主に造園やガーデンの設計・施工・管理の一貫した仕事を「ランドスケープ（ガーデン）キュレーター」の視点とスキルで携わっている。「竣工=完成」ではなく、「竣工した時がスタート」と考えている。

マンション外構の例では、住民である管理組合からの要望が造園や植栽の知識の乏しい管理会社を経て造園職人に至るまでの階層的な縦割りコミュニケーションの間に、齟齬や予算・工程・意思疎通の大きなロスが生じている。キュレーターは、各階層との双方向コミュニケーションを行い、専門知識・スキルを用いて柔軟な提案・対応力・作業効率UPを図り、質の高い植物の風景を創りだす。

キュレーターには、植栽の現場知識・スキルに加え、持続可能な環境意識や景観への配慮、社会的な要素、美意識、などが求められる。多様化した顧客ニーズに対応できる多角的な視点・スキルを持つこの新たな造園職能分野に、女性専門職の活躍の場を創造したい。

行う。

●**コンサルタントの新しい仕事**：「公園を造る」から公園の「風景をつくる」仕事となる。公園管理者と市民をつなぎ、公園を「地域生まれの世界水準」とする。例えば「公園樹木の生長管理技術指針（心得）」も良い試みである。心得とは「公園には大きな木がある。大きな公園にはしっかりした森がある。全国11万余の都市公園をまちの表札にする。」ことである。



風景をつくる風格の木（新宿御苑）

## 特別セミナー 第3回 『学び・考え・行動する研究体』 令和3年8月6日



樹形再生実験から7年後の萌芽枝開花成功例

「豊葦原瑞穂の国」と称せられる我が国は、夏雨気候である大陸東岸のモンスーン下に位置し、誠に植物の生育に適した環境にある。そのため植物管理も保護育成管理、維持保全管理よりも抑制管理が重要であるが、これまで不足していた。密度管理により桜の名所の景観再生を果たした大宮公園の事例で示したい。

桜の名所の強調に取り組むあまり、長年の補植により過密度で健全な樹形を損ね、逆に観賞価値が損なわれていた。2004年からの「サクラ活性化委員会」の調査により問題点を指摘、健全な成長には1本当たり250㎡の空間、16mの隔離が必要であったとした。

地域の市民にはワークショップを通して、過密度の問題点、樹木の特

問題や、それと連動する管理受託者の植栽管理技術の低下という構造的課題がうかがえる。また、都市公園の植栽管理に係る法令では、公園台帳の記載項目に植栽が抜けていることや、都市公園条例における管理が行為と使用の制限という利用の管理であり、植栽管理が規定されていない。

こうした現状を改善するためには、管理者のスペシャリスト化と継続的管理体制の構築、空間的植栽管理の検討、植栽管理技術の改善、法令の充実が急務である。



スタジアム、マテバシイなどの切詰め剪定で鬱蒼とした国会前庭

造園植栽において重要なのは、監理による目標に向けた一貫性の徹底である。計画から設計、施工、管理の過程で専門家の目標に向けた協力無しには良い空間は生まれない。①施工段階での設計監理は発注者と設計者と施工者が直接現場に立ち会い、植栽材料や設計の意図を確認することが不可欠である。②管理段階における監理はいきものである植物を目標に向けて動態的に誘導する監理が風景の質を左右する。特に成長とともに、大樹化、密生化する樹木を、継続的に一定の空間に納めていくための「整枝剪定」に対する指示が重要である。また草刈や剪定などの管理項目や回数予め決めてこなすだけの「確定型管理」でなく、成長に合わせて適宜草刈や剪定などを行う「順応型管理」が相応しい。

そして、現場で事業者、設計者、管理者や利用者などが立会い、管理の進め方や内容が設計方針と利用者の意図に沿っているかを確認・調整するための「ウォークスルー」が不可欠である。

みどりの目標景観確認のためのウォークスルー



## 大宮公園の桜の密度管理と次世代木の風景 濱野 周泰 Chikayasu Hamano 東京農業大学客員教授



性（マツの垂直性とサクラの水平性）を活かした景観づくり、再生への時間軸などについて丁寧に説明を行うことで課題を共有し理解を得た。樹木の密度管理は、個にあっては剪定、群にあっては除伐・間伐による。また樹齢階層の多層化により更新の時期を散らす事が重要となる。

明治神宮内苑の「林の部」は本多静六率いる本郷高德、上原敬二ら林学系学識者により計画された。計画理念、施工記録、管理の方針が「明治神宮御境内林苑計画」に一括してまとめられている。これは現在の公園植栽において計画・設計、施工そして管理の方針の統一が必ずしも取れていない課題に対しての大きな指針となる。

明治神宮内苑は当初10万本の献木、延べ11万人の勤労奉仕により約70haの「聖」の空間として造営された。「林苑計画」ではカシ・シイ・クス類、常緑広葉樹を将来の主林木とし、全般の植栽計画の基準とした。「管理方針」では、当初に移植や伐採すべき樹木の類型を示し、将来は「あえて人力を以て林苑樹木の生育に干渉することなく、これを自然の発育と淘汰に委し」とした。

造営時(1920年)木本365種に対し、第二次調査(2012年)時には木本234種と減少している。100年間の内苑の環境変化をどう捉えるかが課題である。



明治神宮内苑の参道

明治神宮内苑100年と御境内林苑計画書  
江尻(野田)晴美 Harumi Nozaki-Ehri  
明神宮とランドスケープ研究会メンバー・樹木医事務所所長代表



●**都立新宿中央公園の指定管理業務**：（一財）公園財団と共に2013年より担当。樹木健全度調査に基づき年度別・エリア別の樹木整理計画を立案し順次実施した。8年間で計323本を伐採し明るく開放的な空間創出と樹木の健全化を図った。2018年のイベント「四川フェス」では2日間で10万人が来場するなど大きな効果が発揮されている。

●**樹木管理の一般的な現状**：樹木の管理計画がないために発注者担当の異動や受託業者の交替で一貫性が保てない。品質に対する評価システムがないために低品質安価受注に陥る。樹木健全度調査がなされないケースが多く適正な管理（剪定、伐採、更新）に繋がらない。

●**今後の管理への提言**：管理計画の作成（発注者は利用計画に基づく管理計画、施行者は施工計画、コンサルは植栽設計時に将来の樹木管理計画）が重要。技術の担保・継承として、街路樹剪定士、街路樹剪定指導員、植栽基盤診断士、等の管理関連の資格を重視して欲しい。



新宿中央公園四川フェス(2018)

### 新宿中央公園を蘇らせた公民連携・指定管理者

卯之原 昇 Noboru Onohara  
一般社団法人東京都造園緑化業協会理事長・株式会社昭と造園 代表取締役社長

について今後のあり方を示すとともに、これを実現化するための植栽技術を研究する組織体です。11月29日には第1回委員会が開催され、「ワーキングチーム」も発足するなど、新たなCLAの技術研究がスタートしています。なおワーキングチームに関しては随時増員募集を図っていきます。※今回概要をご紹介した3連続特別セミナーの議事録は会員他向けに公開の予定です。詳しくはCLA事務局にお問い合わせ下さい。

セミナーを終えて

総計3回、9人の講演者による3連続の特別セミナーはwebを中心に延べ400人を超える方々に参加して頂きました。この特別セミナーをキックオフとして、CLA内に「公園樹木長寿命化技術研究特別委員会」が設置されました。これは、造園技術のコア技術である植栽技術の総合化及び高度化を目指し、特に都市における公共緑化施設の代表である都市公園における公園樹木を対象に、その特性を踏まえて現状と課題を整理し、都市市民の生活ニーズに応え、安全・安心で風格ある公園樹木とその空間